

東京 IPO 特別コラム

2017年7月25日 Vol.90

高寄りの反動出る6月の IPO 銘柄

間もなく8月、お盆の季節も近づいていますが IPO 市場は相変わらずホットな値動きが見られます。2017年のこれまでの IPO 企業数は43社となりほぼ順調な推移を辿っています。ただ6月の IPO 銘柄は初値がやや高過ぎたためかその後の株価は調整気味の推移となっています。43銘柄の初値から高値までの平均上昇率を計算したところ平均+38%という結果が出ました。最大の値上がりを示したソレイジア・ファーマ(4597)は初値から高値まで2か月間で178.6%の上昇率を示しており、現在でも初値に対して7割近い上昇となっています。このほか初値から高値まで倍以上になった銘柄としてはレノバ(9519)、ファイズ(9325)、ジャパンエレベーターサービスHD(6544)、ウェーブロックHD(7940)などが見出せますが、こうした初値買いによる成功事例を横目に投資家の皆さんも IPO 銘柄への関心をお持ちになっているのかも知れません。

さて、そうした物色気運の高まりが6月の IPO 7銘柄の初値を高くしたとの印象があります。例年5月の IPO が無いことから6月の IPO はホットな初値形成になりやすく今年も平均すると2.55倍で寄り付いています。これら7銘柄のその後の高値までの平均上昇率は19.8%で比較的穏健な上昇となっています。高寄りした結果、その後の株価は頭重い展開を余儀なくされ、高値形成後はその多くは調整局面が続いています。短期的な視点での売買が中心で資金の移動が激しいのかと推察されます。こうした反省からか7月になっての IPO 銘柄の公開価格に対する初値は1.73倍で比較的穏健な初値形成となっているようです。

6月の IPO 銘柄に限らず多くの IPO 銘柄は初期に高値をつけた後に多くが調整局面に入ってしまうケースが多いようです。短期上昇後の調整局面をむしろ改めて投資チャンスと見る投資家の皆さんも多いかと思えます。それぞれの事業内容と株価の位置を確認しながらそれぞれに評価されて反転上昇を待つスタンスで取り組まれるのも面白いかと思えます。IR 活動は企業によって様々でなかなか皆さんに伝わりにくいのかも知れませんが、決算短信による業績確認や社長のメッセージ動画、メディア向けリリースなども参考になるかと思えます。2015年に IPO したアクアライン(6173)は IPO 後、株価低迷が見られましたが、東京 IPO ではセミナーを通じて皆さんに認知して頂いたという経緯があります。その後の株価は上昇トレンドを続け公開価格1250円に対して先般2000円を突破して参りました。こうした事例を増やしていきたいと願い、東京 IPO では今後 IPO 後に認知度の少ない企業を個人投資家向けセミナーや関係サイトを通じて皆さんに紹介して参りたいと思えますので宜しくお願いします。

因みに筆者が密かに注目しているのは札幌アンビシャス市場に IPO した株価低迷中の銘柄です。これについては次号にてご報告したいと思います。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)